

関西学院 千里国際中等部・高等部

新シリーズ「Authentic Opportunities 本物に触れる教育」 第6回

最後の学期を、最高の学期に！

情報科 / 総合科 教諭 合志 智子

千里国際（SIS）は受験勉強を詰め込むための学校ではない。自分の将来を見つめ、長い人生において役立つ学習もしくは学習に取り組む姿勢が身に付くことを目指している。これが“Learning for Life”という言葉で説明されている。

千里国際で“Learning for Life”を学び、大学に進学した卒業生たちは進学先でも積極的に学ぶ姿勢を示している。そのような卒業生が高く評価されて多くの指定校推薦枠をいただいている。そういう訳で、指定校推薦やAO入試で進路が11月までに決まってしまう生徒が半数を超えるようになってきた。この現状では、以前のように冬学期を自由登校とする意味がなくなってしまった。実際に7割くらいの生徒が卒業直前の3月まで授業を選択している。

そこで、3年前から最後の学期を本校での学習の総仕上げの期間として、より充実した学期にするための議論を重ねてきた。そして昨年からはじめたのが「18学期」の取り組みだ。中高の6年間を数えて最後の学期、（3学期 X 6年＝）18番目の学期のためのプロジェクトだ。

ここに含まれる活動には Peer Helper（低学年への個別の学習指導）、Teaching Assistant（授業での教員の補助）といった学習ボランティア的なものから外部での職業体験、手作り卒業式などの企画、準備や運営といったものまである。もちろん中心となるのは授業だ。本校にはもともと卒業後に役立つ授業は多いがその中でも人気があったのは、茶道、第二外国語（中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語）、演奏主体の音楽、Native 教員による様々な英語の授業、An Introduction to Cultural Psychology、食物（生活科学）、カラーコーディネート、数学的思考力を鍛える演習、物理特論、地学C（宇宙）、Information Technology、Newspaper in Education、政治・経済などであった。また、18学期のために新設された授業には、平和学特講、日本語クリニック、教養古典、簿記入門などがあった。

そして、もうひとつの18学期の新しい取り組みとして生まれたが「卒業研究」だ。今回これを担当した Datta、合志、Ray、Frater の4先生は本当に熱心に指導してくださった。こ

うちの合志先生がその内容を次に説明してくれる。

受験が秋に終わり、卒業研究も含めて18学期を過ごした生徒の卒業式での感想が今も耳に残っている。「6年間で一番忙しい学期だったけれど、とても充実した18学期だった。」

SIS 校長 眞砂和典

